

来て 見て 触れて

むかし探検

No.8
～鎌倉時代の
パワースポット交野～

鎌倉時代は、貴族に代わって武士が政権を取った時代です。平安時代終わり頃から、武士の勢力が大きくなり、中でも平氏と源氏の一族が台頭していきます。

1185年には、源氏の頭領である源頼朝が、荘園や公領を管理する守護・地頭という役職をつくり家来の武士を任命しました。さらに1192年には鎌倉に幕府を開き、名実ともに武士が国を治める時代となります。

岩倉開元寺

江戸時代の書物に、南岩倉開元寺というお寺の跡が交野山にあったと記されています。

江戸時代にはすでに無くなっているこの寺院がいつ頃からあったものなのかを探るため、郷土史家の片山長三さんと古文化同好会が発掘調査しました。



その結果、出土した建物跡や古瓦などから、鎌倉時代にはすでに交野山に寺院があったことが明らかにされました。

岩倉開元寺の名残は、現在でも交野山に見ることができます。神宮寺から交野山に登る道には、石に刻まれた仏が置かれていることから「石仏の

道」と呼ばれています。この中で一番古いものは、鎌倉時代の弥勒菩薩仏で、岩倉開元寺が開かれたところに置かれたものです。

皇族御用達のお寺

文献によると獅子窟寺は、鎌倉時代に皇族の人々が病気の療養などを祈願して訪れたと伝えられていて、とても有名な寺院だったことがうかがえます。

また、獅子窟寺の近くに、「王の墓」と呼ばれる2つ並んで置かれた鎌倉時代の石塔があり、獅子窟寺を訪れた亀山上皇の遺骨の一部が納められていると伝えられています。

鎌倉時代の獅子窟寺の瓦は、材料の粘土は交野付近のものようですが、作り方や文様をつけるために使われた型が、奈良にある薬師寺のものと同じ形をしています。

このことから瓦工人が薬師寺から交野へ出張していたと考えられ、奈良の有力寺院と獅子窟寺の間に強いつながりがうかがえます。



獅子窟寺の瓦（鎌倉時代）

歴史クイズ

問題

鎌倉時代、平安貴族が主に身に着けていた衣服が幅広い人々にも広まります。

中でも特に大流行し、たとえ盗賊におそわれても身に着けていたといわれるものは次の内どれでしょうか？

- ①履き物 ②女性の腰帯 ③男性の帽子



10月号歴史クイズ答え

正解は、②でした。
解説：正式な名前は五衣唐衣裳（いつぎぬからぎぬも）といいますが、後世に誤って十二単と使用したものが広まり、本来の名前より一般的になったものとされています。

歴史クイズの正解者の中から抽選で1名様に、「ジュニア文化財ガイドブック」をプレゼントします。当選者の発表はガイドブックの発送に替えさせていただきます。

応募方法 11月30日（水）までに①答え②名前③住所④電話番号⑤あれば感想・質問を書いて文化財事業団広報プレゼント係（〒576-0052 私部2-29-5 e-mail: bunkazai@city.katano.osaka.jp）

問い合わせ 文化財事業団（TEL893・8111）

天才仏師・快慶の仏像

八葉蓮華寺は傍示に古くからあるお寺です。お堂に残された仏像の調査のために台座から仏像を外すと、「ほぞ」という部分に「巧匠安阿弥陀仏」と書かれていました。これはなんと、鎌倉時代を代表する仏師である、快慶のサインであることが分かりました。



ほぞ部分（阿弥陀如来立像）



仏像の内部に納められていた文書の内容や、仏像の作風からも、快慶の作であることが確認でき、傍示の里のお堂に静かに眠っていたこの仏像は一躍脚光を浴び、国の重要文化財に指定されました。

この仏像は、11月20日に行われるクリーニング作戦で無料公開されます。

鎌倉時代の集落

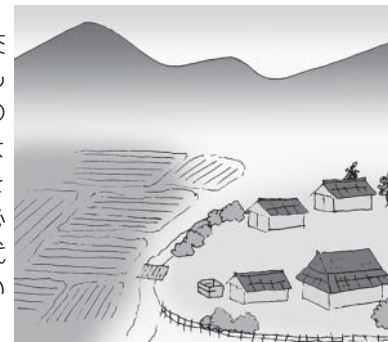
有池遺跡には以前から、機物神社の南側に面して鳥居があったことから、神社の南側に人が住んでいたという言い伝えがあり、まさにその言い伝えどおりに発見された鎌倉時代以降の中世の遺跡です。

特に大きな発見は、幅広く深い溝に囲まれ、防衛に適した鎌倉時代の屋敷跡があったことです。

大きく深い溝は、奈良や平安時代の交野の集落にはないので、武士や地元の豪族、寺院などによる土地の権利などを巡る争いに備える必要があった鎌倉時代ならではの構造といえます。

この屋敷に住んでいた人が武士であるかは分かりませんが、当時の有力者が暮らした場所であったことは間違いありません。

また、いきいきランド交野の南側一帯の耕作地に下に眠っているのが今井遺跡です。JR片町線の拡張工事が行われた時に、鎌倉時代の遺物が見



つかりました。

ここからは下駄が出土しています。まるで最近まで使われていたように見えますが、交野で見つかったのもっとも古い下駄です。



鎌倉時代の下駄（今井遺跡）

他にも枚方の樟葉や奈良で作られていた土器が見つかっています。この土器は、有池遺跡からも見つかっています。

有池遺跡からは、常滑（愛知県）や備前（岡山県）で焼かれた陶器も見つかっています。この頃交野に暮らした人々が、日本各地と交易を行いながら生活を成り立たせていたことが分かります。

鎌倉時代を考古学してみよう

800年前の鎌倉時代、交野の山々は神秘に満ちた土地として栄え、現在にも当時の寺院の名残が残っています。山の所どころに残る平坦な場所にはお寺の建物が建っていたと推測され、そこでは今でも中世の古瓦が見つかることがあります。

また、鎌倉時代から盛んに作られ始めたお地蔵さんは現在も地域で大切に守られており、私市の共同墓地には府内でも最も古い、弘安四年（1281年）と刻まれたお地蔵さんがあります。

もしかするとみなさんの近所にある、普段見慣れたお地蔵さんも、その由来や特徴を詳しく調べると鎌倉時代のものかもしれません。

遺跡たんけんツアー・考古学教室 参加者募集

今回は私部城跡を中心に中世の交野に関連のある場所を歩き、平安時代から安土桃山時代までの遺物に触れて、交野の歴史を学びます。

◆遺跡たんけんツアー

日時 11月27日（日）午前10時～正午（小雨決行）

コース 交野市駅バスロータリー側（集合）⇒私部城⇒光通寺⇒無量光寺⇒住吉神社⇒でがしろ遺跡⇒交野市駅

参加費 100円（保険・資料代）

◆考古学教室

日時 12月4日（日）午前10時～正午
ところ 教育文化会館（倉治図書館横）

参加費 無料

定員 先着各30人

申し込み・問い合わせ 11月1日（火）から文化財事業団（TEL893・8111、FAX893・8168 土・日曜日、祝日はファクスで受付）※遺跡たんけんツアーと考古学教室の両方への参加が原則です。片方のみの参加の場合はお問い合わせください。